

相生山緑地をめぐる
名古屋市の動き

やっと **説明会が6月
~7月に開かれる見込み
です。**

世界の「AIOYAMA」プロジェクト
外検討会議記録から
以下抜粋します。

「防災機能については、
**1車線相当の園路を設けて
下山畑口から相生口を
つなげることで確保でき
ることを確認**」
(井田道路建設部長)

「(説明会などでは)丁寧に
説明いただいて、ご意見を
うかがっていただきたい」
「(道路ネットワーク機能、
山根学区入り込み、の対策
がなされ) **道路が園路
になり公園になっていく**」
(山田天白区長)

「今回の緊急車両については
自然破壊の話もある中で、
**園路を造る造らない、
どっちに転んでもそんなに
影響はない**」
(木全消防長)

「すごく改変しろという意味
ではなく、**自然を大事
にしながら検討を進めて
欲しい**」
(河村市長)

市長方針を基に、としなが
らも市の幹部の発言のなか
で矛盾がみうけられます。
市政の方向を定めるには、
市民のまっとうな意見の集
中が求められていると感じ
ています。

**「説明会」や「意見
聴取」に参加する準備
をしよう。**

ヒメボタルと人間と

相生山もヒメボタル舞う季節を迎えます。
まだ成虫発生のピークではありませんが、もう人びとが出向き始めているようです。
今年もこれから1ヵ月、特に週末の夜にはたくさんの方が押しかけ、深夜まで森のあちこちをさまようことになりそうです。近年のSNSの普及、ラインやインスタブームのせいでしょうか、去年はこれまでにない大勢の来訪者を見かけました。けっして「自然回帰」といった傾向でないのは確かです。

みなさん、想像してみてください。
人の数が増えるとそれだけで、森のいきものたちへの圧力は強まります。土は固められ、道は広がり、枝葉が傷つけられ、ときにはゴミが捨てられ、侵入者が現れ、いきものたちの生息域が狭められます。



相生山緑地でのヒメボタルの
画像です。

動物写真家の加藤文雄さん
から提供いただきました。
相生山の道路や緑地公園の
今後について、自然と深くか
わっている経験をもとに、関心
を寄せ心配し、各方面へ情報
発信してくださっている方の
一人です。

人間たちは求めます。観察とか、調査とか、癒しとか、観賞とか、いい画像を友だちに
見せたいとか、子どもに自然を感じさせたいとか……。

けれどもヒメボタルは、人間のためにいのちの営みを続けているわけではありません。
姫蛍、ロマンチックな名前が付けられています。飛ぶのはオス。種の存続のため、光
の波動を発生しながら地表近くにうずくまるメスを求め、短い成虫期間を尽くします。

ヒトは全てのいきものたち、地球の命運さえも左右できるほどの力を持つに至りました。
だからこそ、自分たちの行動が他のいのちや環境にどんな影響を与えてしまうのかを、
もしかしたら取り返しのつかないことをしてしまうかもしれないと、臆病なくらい慎重でなく
てはならないはずです。自分中心ではなく、総合的客観的でなければならぬと考えま
す。ごう慢ではなく、限りない謙虚が求められていると思います。

相生山のヒメボタルは、相生山の道路建設に再検討を呼びかける活動の中で、その
存在が公表されました。「知られることで悪影響が予測されるけれども、古代から生き
残ってきた幾多の種の消滅の危機と比べればやむを得ない」という苦渋の判断であつ
たと聞いています。

森のいきものたちにとって、いのちの存続にかかわる一大事＝道路建設による森の分
断は回避されたかに思われました。しかし、人間たちによって環境破壊は続いています。
「道路予定地」に園路を貫通させることを前提とした「公園」を考案する行政のみならず、
市民によるイベント目的や自己満足のための「自然の活用」によって、相生山緑地のい
のちが無視軽視されることに反対です。

私たちは今年は「ヒメボタルの観察会」を呼びかけることをしないつもりでいます。情報
収集と、認識不十分な「悪意のない無法者」に対する監視活動や啓発は続けたいと考
えています。ボタルたちをできるかぎりそっとしておく方向に舵をきりたいと思います。
ご理解、ご協力いただけますように。この試みが良い効果を呼びますように。

2018.5.12

by 森の妖精一同 代表してアイ

2015. 6. 3

名古屋市長 河村たかし様

相生山の四季を歩く会 事務局 田中眞理
ラブリーアース J a p a n 事務局 古川善嗣
名古屋市南区豊 4-22-10 tell/fax : 052-821-6463
ホームページ <http://lovelyearth.info/>

世界の「AIOIYAMA」プロジェクト検討会議への提案書

- I 「名古屋のまちに、自然を大事にしようという精神でいこう（昨年末市長記者会見）」が根本であり、わたしたち市民はこの姿勢を支持しています。
決してぶれることなく、検討が進められるよう希望します。
- II このプロジェクトは市民と名古屋市の協働によって初めて達成できるものです。
相生山の道路問題がこれまで払ってきた多くの労苦は、「実情よりも計画優先」の硬直した姿勢によるものであったのではないのでしょうか。
互いを尊重し、経験を交流し、知恵を出し合い、柔軟に、対立ではなく力を合わせることを願います。そのための機会設定や会議の設立を提案します。
- III 具体的には「相生山の魅力は何か」「相生山の価値は何か」をあらためて評価し、幅広い合意を得ていくことから始める必要があると考えます。
議論だけでなく現地に足を運び、生態系についての専門家などによる「案内」も得て体感、理解していくことを最優先させてはいかがでしょうか。
- IV 道路建設という時代に逆行した都市計画に後戻りすることなく、時間をかけてでも、市民にとってより有益な都市計画公園の構想を獲得することこそが、世界に誇る名古屋市の財産になるものと確信します。

相生山緑地の象徴種ヒメボタルに、今年も自然とのふれあいを求める市民が毎夜百人以上も週末には千人に至るにぎわいを見せました。最盛期の2週間、たくさんの人々を案内しながら、相生山の将来についての意見交換もできました。

河村市長の英断を評価する声は圧倒的であると同時に、「世界の AIOIYAMA」を掲げる公園構想が、今ある貴重な自然を壊すことにならないかという懸念も多く聞かれました。

廃止宣言以降、わたしたちのもとに届いた意見、話し合った現段階のまとめを上記提案の形で提出いたします。

また補足するものとして、昨年6月17日提出の提案書を添付します。再読ください。
ご検討をよろしく願いいたします。

以上